

RPPCメール

リサイクルポート推進協議会

第567号（平成27年2月18日発行）

【今週号の主な内容】

■ 《今週の報道発表》

今週の報道発表はございません。

■ 《RPPC事務局からのお知らせ》

1. 調査・研究部会 国際資源循環ミニセミナー開催のお知らせ（受付期間延長しました）
2. 次回循環資源利用促進部会の開催について

■ 《リサイクルポートに関連する最新の情報》

1. 東洋建設、石炭灰（フライアッシュ）を遮水材に有効活用
2. 茨城県、茨城港常陸那珂港区の石炭灰処分場建設で調査・設計
3. 環境省、福島県下の災害廃棄物等の処理状況をまとめ

=====

1. 調査・研究部会 国際資源循環ミニセミナー開催のお知らせ（受付期間延長しました）

リサイクルポート推進協議会調査・研究部会では、国際資源循環物流に関して、課題を整理し、そのシステム化を目指した検討を行うこととしています。

本ミニセミナーは、中国における資源循環ビジネスに関する最新の取組みについて講演頂き、RPPC会員・国土交通省港湾局等を含めた意見交換を行うことにより、リサイクルポートを活用した国際資源循環物流の円滑化に向けた検討を進めることを目的としています。

日 時： 平成27年2月20日（金） 16：00～19：00

講 師：元 東達集団／大連国家生態工業モデル園有限公司

 総裁弁公室 副主任 小林 均 様

場 所： 一般財団法人 みなと総合研究財団（WAVE） 会議室

※参加募集中です（定員になり次第締め切らせていただきます）

※席に余裕がありますので、ぜひ、ご参加ください。

詳細については、添付のご案内状にてご確認ください。

2. 次回循環資源利用促進部会の開催について

下記日時にて開催予定となっておりますのでご確認ください。

記

日時：平成 27 年 2 月 25 日（水） 10：00～12：00

場所：みなと総研 3 階会議室

【事務局】

1. 東洋建設、石炭灰（フライアッシュ）を遮水材に有効活用

東洋建設は、石炭火力発電所から発生する石炭灰（フライアッシュ）を有効活用した遮水材として「HCB-F（ハイブリッドクレイバリア・フライアッシュ (Hybrid Clay Barrier - Fly ash)）」を開発した、と発表した。

廃棄物を処分するための管理型処分場を築造するには、一般的に底面や端部に多量の遮水材を必要としている。東洋建設が開発した土質系遮水材 HCB-F は、処分する石炭灰を再利用するという新しい発想で生まれた遮水材。同遮水材は、繊維材を混合することで靱性機能が加わり、地盤形状の変形に対して追従し遮水性能を確保できる。

HCB-F の特徴は、▽材料に石炭灰（フライアッシュ）を使用するため、石炭灰の再利用ができる、▽ベントナイトを添加して透水係数を小さくすることにより、処分場における遮水材の底面厚を薄く（必要層厚 50 cm）できる、▽スラリー状で施工できるので、目地や狭隘な部分での作業が容易、▽セメントを加えることにより、石炭灰に含まれる重金属を溶出させない、など。

【港湾空港タイムス】

2. 茨城県、茨城港常陸那珂港区の石炭灰処分場建設で調査・設計

茨城県は茨城港常陸那珂港区中央ふ頭地区に計画している石炭灰の次期処分場の着工に向けた調査・設計を進めている。同処分場は面積 56ha で外周護岸は鋼板セル工法（延長 1826 m）、ハイブリッドケーソン（774 m）で構成している。これまでに環境アセスメント手続きを終了し、現在公有水面埋立免許手続きを進めている。

【港湾空港タイムス】

3. 環境省、福島県下の災害廃棄物等の処理状況をまとめ

環境省はこのほど、昨年 12 月末時点での福島県（避難区域を除く）の災害廃棄物、ならびに津波堆積物の処理状況等についてまとめた。

それによると福島県（内陸部を含む）全体で、39 市町村のうち 33 市町村で災害廃棄物の処理を完了（推計量の 93% を完了）。

沿岸 5 市町（新地町、相馬市、南相馬市、広野町、いわき市）に限ると、災害廃棄物の処理

量は146万tで88%完了。うち処理を実施した災害廃棄物の再生処理量は約118万tで、その割合は81%。

また沿岸5市町が実施した津波堆積物の処理量は116万tで83%が完了。うち津波堆積物の再生処理量は約109万tで、その割合は94%となっている。

【港湾空港タイムス】

#####

発行者：RPPC 広報部会

部会長：徳田 英司 新日鐵住金（株）

部会員：山崎 和宣 五洋建設（株）

堀江 良彰 東京都

加賀谷 聡一 (株)酒田港リサイクル産業センター

紫牟田 和隆 光和精鉱(株)

新谷 聡 りんかい日産建設（株）

リサイクルポート推進協議会事務局 一般財団法人みなと総合研究財団（内）

担当：本野、井手、榎並 URL：www.rppc.jp E-mail：rppc_jimukyoku@wave.or.jp

※会員主催や会員に関係した催し物（セミナーなど）の情報がありましたらご連絡下さい。

開催案内等の情報をメールマガジンで配信いたします。

※メールマガジンに対する意見、要望がありましたらご連絡下さい。

#####

リサイクルポート推進協議会 調査・研究部会 国際資源循環ミニセミナー

リサイクルポート推進協議会調査・研究部会では、国際資源循環物流に関して、課題を整理し、そのシステム化を目指した検討を行うこととしています。

本ミニセミナーは、中国における資源循環ビジネスに関する最新の取組みについて講演頂き、RPPC 会員・国土交通省港湾局等を含めた意見交換を行うことにより、リサイクルポートを活用した国際資源循環物流の円滑化に向けた検討を進めることを目的としています。

◆16:00～17:00

講演「中国(大連;遼寧省)の循環経済分野のビジネス化の取組状況と中日連携への期待」

講師:元 東達集団/大連国家生態工業モデル園有限公司

総裁弁公室 副主任 小林 均 様

講師紹介:1964 年生まれ、埼玉県川越市出身。1989 年東北大学工学部土木学科卒業後、(株)エックス都市研究所入社。環境エンジニアリング部長を歴任

2011 年 3 月同社退社。

同年 4 月より中国転身。2015 年 1 月退職。

技術士(衛生工学)、早稻田環境総合研究所招聘研究員。

◆意見交換会

※参加費無料

●日 時： 平成 27 年 2 月 20 日 (金) 16:00～19:00

●場 所： 一般財団法人 みなと総合研究財団 (WAVE) 会議室

(東京都港区虎ノ門 3-1-10 第 2 虎の門電気ビルディング 3 階)

参加募集人員は **40 名** (定員になり次第締め切らせていただきます。)

●申し込み

参加を希望される方は以下の参加申し込み用紙にご記入の上、**お早目**に FAX 又は電子メールにてお申し込み下さい。

申込先：リサイクルポート推進協議会 事務局 担当：本野・井手・榎並

FAX：03-5408-8741 E-Mail：rppc_jimukyoku@wave.or.jp

ミニセミナー

参加 ・ 不参加

意見交換会

参加 ・ 不参加

※○を付けて下さい。

参加者のお名前：ふりがな _____

ご 所 属： _____

電 話 番 号： _____ FAX： _____

E - m a i l： _____